

関係者輸送ルートの検討状況 (パラリンピック・ルート・ネットワーク)

パラリンピック・ルート・ネットワークの設定に当たっての基本的な考え方は、オリンピック・ルート・ネットワークと同様であり、輸送運営計画 V1 にて公表済であるが、今回、ルート案を示すに当たり再掲する。

1. 関係者輸送ルート (パラリンピック・ルート・ネットワーク) の設定における基本的な考え方

○全体

パラリンピック大会における関係者輸送ルートは、「パラリンピック・ルート・ネットワーク (PRN)」と呼称する。東京 2020 大会におけるパラリンピック大会の競技会場は、オリンピック大会の競技会場と同じ場所を使用するという特徴がある。そのため、パラリンピック・ルート・ネットワークの検討は、ルート設定の考え方や運用手法といったオリンピック・ルート・ネットワーク (ORN) の検討状況を踏まえつつ進めている。

○関係者輸送ルート (パラリンピック・ルート・ネットワーク)

東京 2020 大会による全ての大会ステークホルダーに対し、安全・円滑かつ効率的で信頼性の高い大会輸送を提供するとともに、一般市民生活や都市活動に与える影響を考慮して設定する。

【設定にあたっての基本コンセプト】

- a. 安全性、定時性を考慮し、信号交差点がなく、一般道に比べ事故率も低い高速道路を主として設定する。
- b. 一般道路においては交通容量の大きい 4 車線以上の道路を優先して選定する。
- c. 最寄りとなる高速道路出入口から競技会場等までを最短距離で結ぶ経路を設定する。

※ ORN のルート設定の基本的な考え方と同様

2. 関係者輸送ルート (パラリンピック・ルート・ネットワーク) の運用手法について

「東京 2020 大会の交通マネジメントに関する提言 (中間のまとめ)」に基づき、TDM (交通需要マネジメント) と TSM (交通システムマネジメント) で構成される交通マネジメントを実施し、大会関係者の円滑な輸送と都市活動の安定の両立を図る。

<関係者輸送ルート概念図>



3. 東京圏における関係者輸送ルート（ORN／PRN）の検討状況

PRN 設定の考え方や PRN のうち大会ルート（高速道路・一般道）を今回提示する。

		ルート設定 の考え方	ルート（案）	交通システムマネジメントの考え方	
				高速道路	一般道
ORN	大会ルート	公表済 ^{*1}	公表済 ^{*2}	公表済 ^{*3}	公表済 ^{*3}
	練習会場ルート	公表済 ^{*1}	検討中		
	代替ルート	公表済 ^{*1}	検討中		
PRN	大会ルート	ORNと同様 （再掲）	今回提示	ORNと同様	ORNと同様
	練習会場ルート		検討中		
	代替ルート		検討中		

*1 2017年6月に策定した輸送運営計画V1に記載し、公表

*2 高速道路部分を輸送運営計画V1に記載、一般道を含む選手等を輸送する大会ルート案を2018年4月12日に開催した輸送連絡調整会議（第5回）において公表

*3 2018年4月12日開催した輸送連絡調整会議（第5回）において公表